

アフガニスタンの平和を願って

浅口市・金光学園高1年 田中 希莉子

「アフガニスタンの反政府武装勢力タリバンが首都カブールを制圧した」というニュースをテレビで見た。私たち家族には、日本に留学に来ていたアフガニスタン人のAさんという友人がいるのでとても心配になった。勉強を終えてアフガニスタンに帰国し、日本の農林水産省のようなどころで働いていると聞いていた。8月17日の新聞を読んで、改めて起こったことその影響を知った。

写真には「15日、カブールのアフガニスタン大統領府を占拠した反政府武装勢力タリバンの戦闘員ら」とあった。大統領はすでに国外に脱出し、民主政権は崩壊したという。母がAさんと連絡を取ることができ、無事を確認できた。しかし「2001年の米中核同時多発テロ後の米英軍による攻撃で旧タリバン政権が崩壊して以来約20年ぶりに復権したことで、イスラム教の厳格な適用を主張して女性の権利を抑圧するなど恐

怖政治を敷いたり、人権侵害への懸念が広がったりしている」と記事にあったので、これからもっと心配な状況になるのではと記事には、アメリカは「国益」にならないから軍を撤退するという内容があった。この「国益」とは、アメリカに直接的な利益があるということだろう。しかし、私は自分の国に利益があることだけが国益ではないと思う。すべての国が自国の利益だけを考えていく



15日、カブールのアフガニスタン大統領府を占拠した反政府武装勢力タリバンの戦闘員ら（AP写真）

タリバンアフガン掌握

首都制圧、大統領国外に

【カブール共同】アフガニスタンの反政府武装勢力タリバンは15日、首都カブールを制圧して勝利を宣言した。ガニ大統領は国外に脱出し、民主政権は瓦解。タリバンが政権を掌握し、2001年の米中核同時テロ後の米英軍による攻撃で旧タリバン政権が崩壊して以来約20年ぶりに復権した。



アフガニスタン
カブール
タリバン
アフガニスタン
カブール
タリバン



ガニ大統領（ケッディ）

アフガニスタン大統領府を占拠した反政府武装勢力タリバンの戦闘員ら（AP写真）

タリバンは15日、首都カブールを制圧して勝利を宣言した。ガニ大統領は国外に脱出し、民主政権は瓦解。タリバンが政権を掌握し、2001年の米中核同時テロ後の米英軍による攻撃で旧タリバン政権が崩壊して以来約20年ぶりに復権した。

タリバン政権は在留外国人の安全確保のため15日から帰国者を受け入れ、米軍増派は決定。駐留規模は一時約6千人となる計画で、撤退開始の約2500人から倍以上に膨れあがる可能性がある。カブールの米大使館からは15日に退避を要。日本政府も大使館員を退避させる。

中村哲さんの著書「アフガニスタンで考える 国際貢献と憲法九条」（岩波ブックレット）を読むと、日本とアフガニスタンには文化や風習の違いがたくさんあることがわかる。アメリカとアフガニスタンにもあるだろう。その「違い」についてどんなことも理解せずに批判するのはなく、その国の中で良いとされてきたものは大切にしなければならぬ。中村先生のように、他国の問題でも現地の人々に寄り添って支援を続けることが大切だと思う。

タリバン政権になって3カ月。規制が厳しくAさんと連絡を取ることに難しい。Aさんの作る美味しいアフガン料理をもう一度食べたい。そんな日が来ることを願っている。

2021年8月17日付 山陽新聞